

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第30回

ホップ



クワ科に属する雌雄異株、つる性の多年草で、アサ(大麻)に近い種です。夏から秋にかけて開花しますのでその雌花を採取してプレスしたものがホップです。

ホップは麦汁に加えて加熱してビールの香りと苦みをつけます。ヨーロッパでは支柱を立てワイヤーを張り栽培している様子を車窓から見る事が出来ます。日本においても東北地方で栽培されています。

ホップの成分研究は古くから行われていて、精油成分、苦味をもつフムロン酸類、プレニールカルコン類、プレニールフラボノイド等が単離構造決定されています。

ホップは古くから鎮静作用、睡眠作用、健胃作用をもつ民間薬として用いられており、ヨーロッパではカプセル入りのホップが売られています。

本画はサワビーによる1700年代末の作品です。